

外国人児童の読む力の育成支援のためのトレーニング セットの開発に向けて

—ひらがな特殊拍の集中トレーニングのデザインと実施—

荒木 和子 （横浜市教育委員会日本語講師／横浜国立大学大学院生）

子どもの日本語教育研究会 第10回大会 2025年3月8日（土）

今回の教材開発の参考にしたMIMが基盤としているRTIモデル図

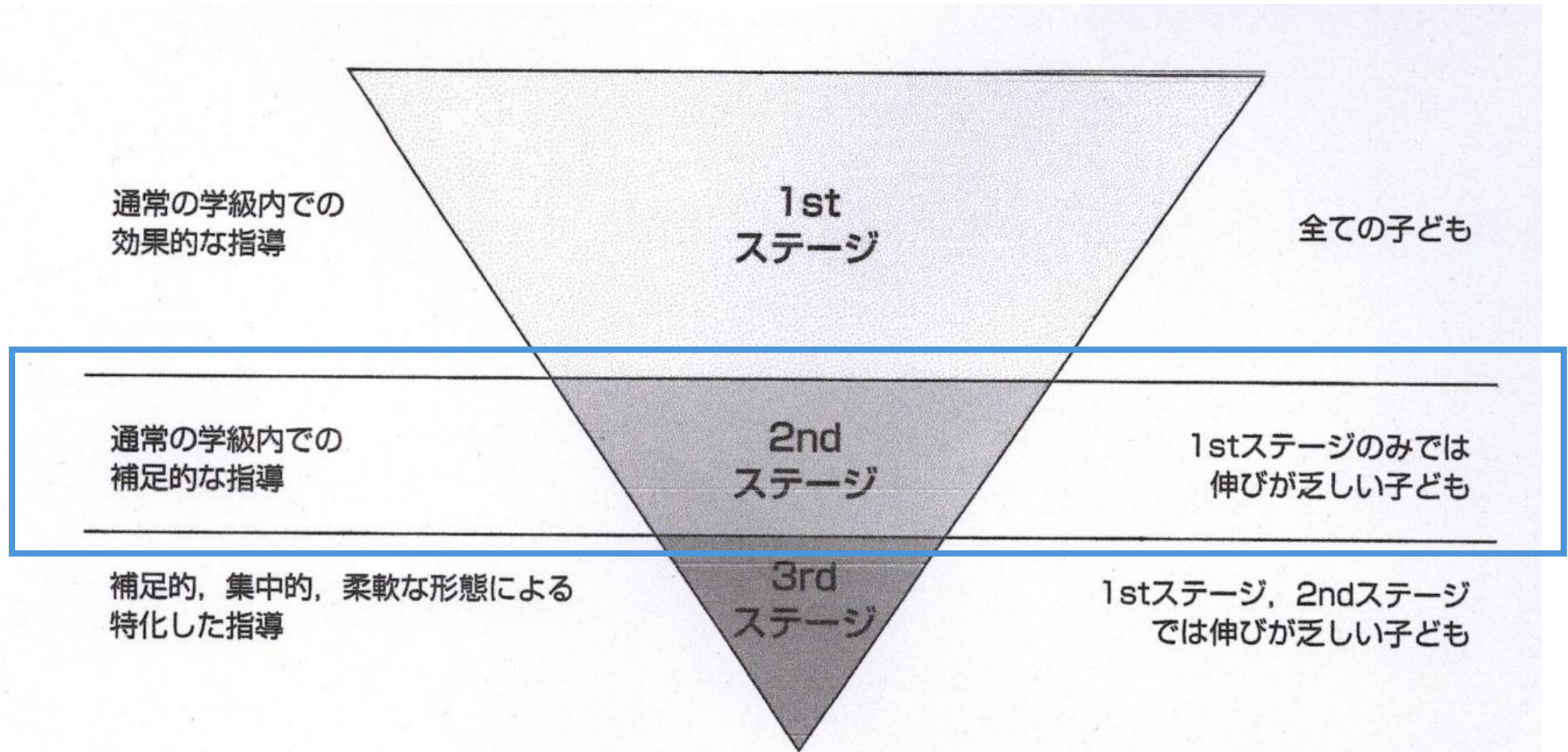


図1-1 通常の学級における多層指導モデル(MIM)の構造

特殊拍セット実施対象者 （つながる国：中国、フィリピン、ネパール）

	在日	人数
グループA	来日約6か月	5名（6年、5年×2名、4年×2名）
グループB	来日1年以上	3名（ 5年 、4年、3年、2年）
グループC	来日2年以上	4名（5年、4年×2名、1年）

実施内容（全6回）

- ・「文字綴り3択課題 10問」「ことば読み課題 8問」「音読課題」の3セットを毎回実施
- ・毎回実施の前に音韻の特徴の確認をする。1回の実施時間は5分～8分程度
- ・音読速度測定の際はどの段落まで読むか、児童に決めさせる。音読を録音し、聞きたい児童には聞かせる。

初回目	実施内容の説明と音読速度測定	「しっぽのやくめ」小1国語前期教科書より
1回目	濁音、半濁音	
2回目	促音	
3回目	長音	
4回目	拗音	
5回目	拗長音	
6回目	まとめ（混ぜこぜ）	音読速度測定 「いろいろなくちばし」小1国語前期教科書より

特殊拍トレーニングセット（試行版）より

教材(3課題)例 「5回目 拗長音」

① 文字綴り 3 択課題 全10問 Power Point 教材

正しいのは どれ?

なが〜い「きゃあ」「きゅう」「きょう」①

- ① じゆう
- ② じょう
- ③ じゆ

1 2 3 4 5
6 7 8 9 0

10

- ① べんきよ
- ② べんきょう
- ③ べんきよお



（ 月 日 ）

ながい 「きゃ」「きゅう」「きょう」
ただ
 正しいのは どれですか？

1	①	②	③
2	①	②	③
3	①	②	③
4	①	②	③
5	①	②	③
6	①	②	③
7	①	②	③
8	①	②	③
9	①	②	③
10	①	②	③

解答用紙



② ことば読み課題 全8問 Power Point 教材

児童はページごとに現れることばを読む。

チャレンジ よめるかな

なが〜い「きゃあ」「きゅう」「きょう」①



りょうて




15

じゅうご

③ 音読課題 紙教材

その回の課題に特化した
文章課題
楽しく読めるよう、リズム
ム感を意識して作成

きゅうしよく
きょうの きゅうしよく なんだろう
とけいの はりは じゅうにじで
わたしの おなかは
ぐう ぐう ぐう
もうすぐ じゅぎょう おわるかな
きゅうしよく はやく たべたいな



実践結果のまとめ

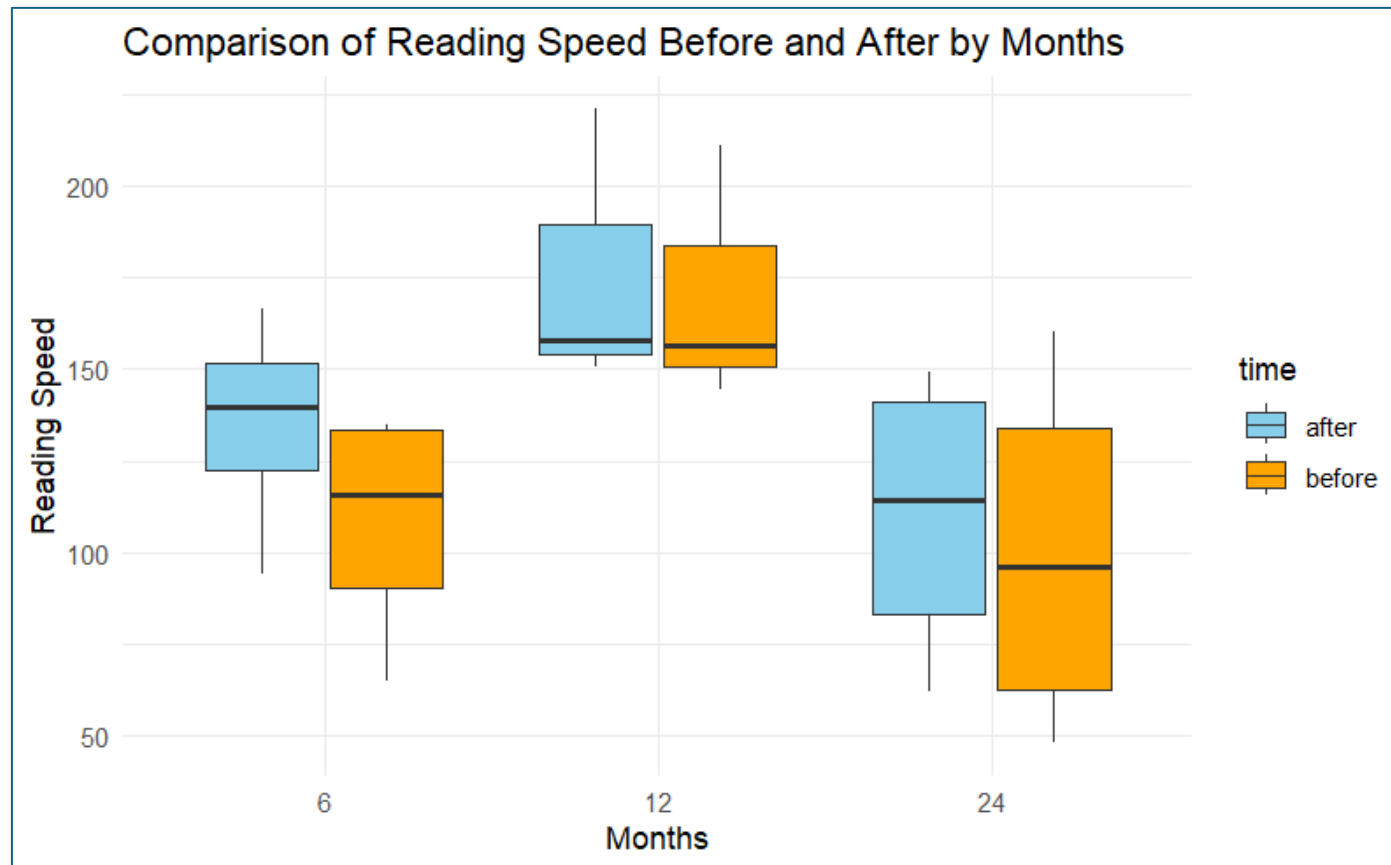
参加者の滞在月数と実施前後の音読速度と変化率比較表

ID	months	before	after	change_rate
1	6	133.14	166.67	25.1
2	6	64.76	94.14	45.4
3	6	135.11	146.90	8.7
4	6	98.45	132.09	34.2
6	12	144.46	157.78	9.2
7	12	211.01	221.30	4.9
8	12	156.50	150.80	-3.6
9	24	160.51	138.54	-13.7
10	24	125.20	149.47	19.4
11	24	47.80	62.19	30.1
12	24	67.21	90.00	33.9

$$\text{変化率 (\%)} = \frac{\text{実施前の値} - \text{後の値}}{\text{実施前の値}} \times 100$$

実施前後のグループ別 音読速度の比較

	在日	人数
グループA	来日約6か月	5名（6年、5年×2名、4年×2名）
グループB	来日1年以上	3名（5年、4年、3年、2年）
グループC	来日2年以上	4名（5年、4年×2名、1年）

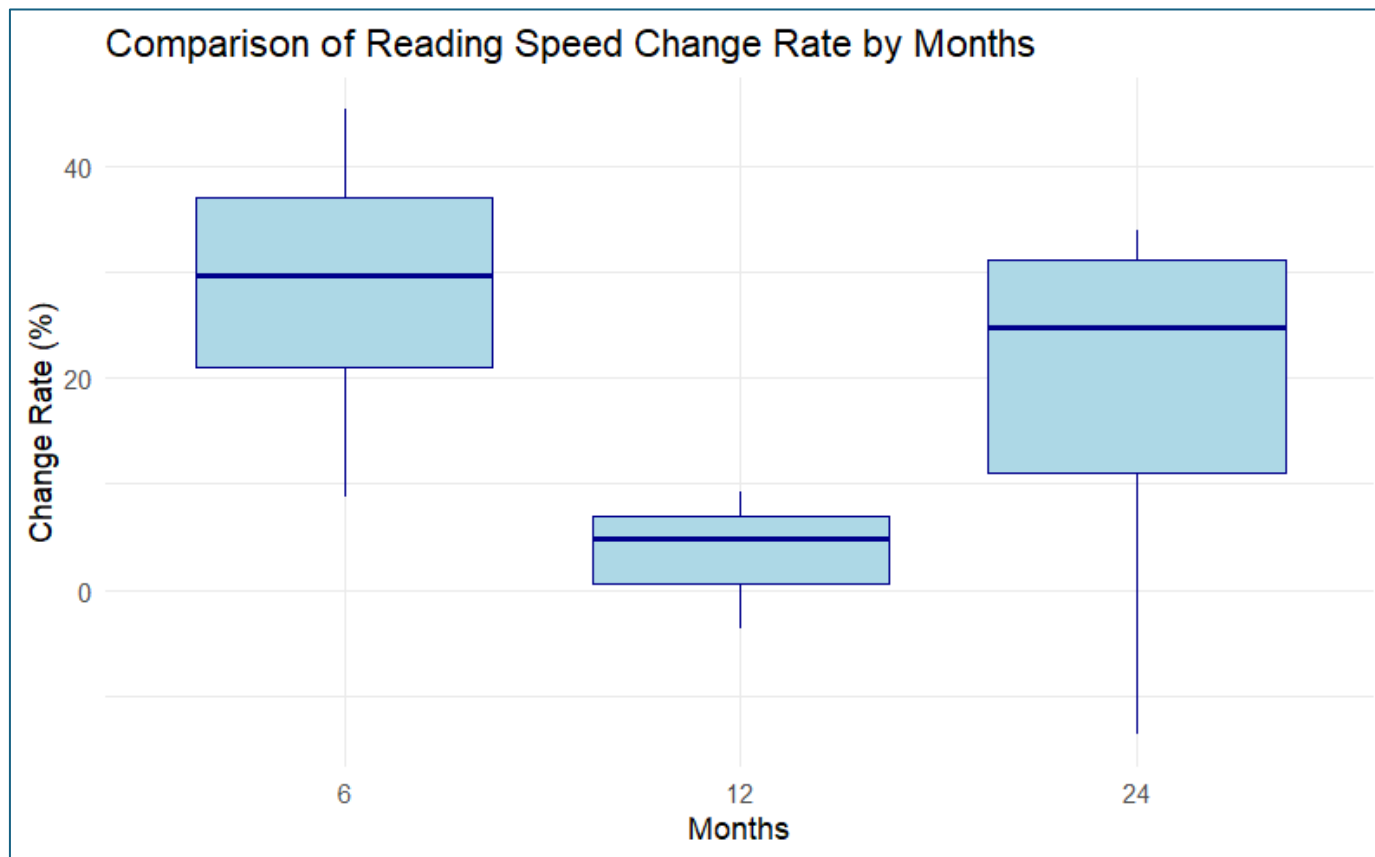


どのグループも実施後の音読速度が向上している（水色）。

グループCは参加者間の音読の力の差が大きかった。

グループ別 音読速度変化率の比較

	在日	人数
グループA	来日約6か月	5名(6年、5年×2名、4年×2名)
グループB	来日1年以上	3名(5年、4年、3年、2年)
グループC	来日2年以上	4名(5年、4年×2名、1年)



変化率はA→C→Bの順に高い。Bグループの児童は実施前すでにある程度の音読力を持っていたことで、速度の大きな変化は無かったようだ。

在日長いグループCは実施前の音読速度が低かった。実施により明示的な実施により特殊音の音韻特徴と書字の確認がより進み、音読速度の向上につながったと考えられる。

まとめ

- ・全6回の実施を楽しんでいる児童が多かった。録音した自分の音読を本のページをめくりながら聞く体験は、児童にとって読むことへの自信につなげられる時間であると感じた。
- ・実施前後の音読速度の測定値より、今回の実施がどのグループにおいても読むスピードの向上に一定の効果があったことがうかがえる。
- ・一連の明示的な活動に取り組むことで児童の各特殊音節への意識化につなげる可能性が見えた。
- ・3つの課題の実施時間は、早い児童で全5分程度。そうでない児童でも8分程度で終わることが分かった。問題の分量は妥当だったのではないか。
- ・Aグループでひらがなの自立拍の習得が弱い児童がいたが、その段階の児童にはまだ時期尚早の課題であると判断し、最後の段階で測定対象から外した。実施時期によっては児童に難しいと感じさせてしまう可能性もあるので、注意が必要。
- ・今回は対象者が12人と少なかったが、今後は特殊音セットの内容をさらに精緻化した後にPPTデータを広く提供しながら実施件数を増やし、データを増やし、また特殊音セットについての意見を集めながら更なる開発研究を進めていきたい。

本日のご清聴、有難うございました。